

令和 2 年 7 月 13 日現在

機関番号：32809

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K12182

研究課題名(和文)産科施設で活用するために開発した助産診断名と診断指標の信頼性・妥当性の検討

研究課題名(英文) Research on reliability and validity of the maternity diagnostic terminology and diagnostic indexes developed for utilizing at obstetric facilities

研究代表者

齋藤 益子 (Saito, Masuko)

東京医療保健大学・看護学部・教授

研究者番号：30289962

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：研究者らは産科施設で妊産婦の状態を診断するためのツールとしてマタニティ診断名を開発している。今回、その中の健康生活診断に関する診断名のなかで、妊娠期42の診断名と診断指標、産褥期42の診断名と診断指標について信頼性・妥当性を検討した。

方法は全国の院内助産や助産外来を担当している助産師に対して、それぞれの類型ごとに診断指標を用いた調査票を作成し、4件法で回答を得て、因子分析により検討した。

妊娠期は106名、産褥期は110名から回答を得て、因子分析の結果、42の診断名は34の診断名に整理された。今後、この成果からマタニティ診断ガイドブック及び実践マタニティ診断の改訂を行っていく予定である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

マタニティ診断は、約20年前から開発に取り組んでおり、診断指標の概念の不明確な部分もあり、診断指標の文言がメンバーの経験に基づくもので、確固とした根拠の必要性を痛感していた。今回の研究により、科学的根拠のある診断指標を作成し整理することができた。

ガイドブックとして医学書院から出版し、臨床の助産師はもとより、母性看護を学ぶ看護学生や助産学生の参考書としても活用されており、今回の結果を踏まえて第6版として改訂することに繋がった。

研究成果の概要(英文)：The researchers have been developing maternity diagnostic terminology as a tool to diagnose the state of pregnant and parturient women at the obstetric facilities. At the present research, the reliability and validity of 42 diagnostic names and diagnostic indexes were studied for each of the pregnant period and the puerperal period.

As the method, a questionnaire survey was conducted on the midwives who are in charge of in-hospital midwifery or the midwifery outpatient department all over Japan. The questionnaire consisted of various kinds of diagnostic indexes with 4 options to answer for each of the categories, and the results were served to factor analyses. The responses were received from 106 midwives for the pregnant period and 110 for the puerperal period and, after the factor analyses, the 42 diagnostic names were integrated into 34 diagnoses. Based on this research result, the existing maternity diagnosis guidebook is to be revised.

研究分野：女性看護学 助産学 生殖看護学

キーワード：助産診断 妊娠期の健康生活診断 産褥期の健康生活診断 因子分析

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

研究者らは妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の母子の状態をアセスメントするために必要な助産診断名を開発して、マタニティ診断ガイドブックとして公表してきた。その中の健康生活診断名と診断指標については、生活に即して作成したが、用語の解釈や概念の意思統一が困難で、診断名と診断指標との関係や同じ種類のなかに共通した診断名があり、診断指標が重なることもあった。また、実際の臨床で使用に関する具体的な意見を全国レベルで調査する機会がなかった。

2. 研究の目的

研究者らは産科施設で妊産婦の状態を診断するためのツールとしてマタニティ診断名を開発している。今回、その中の健康生活診断に関する診断名のなかで、妊娠期 42 の診断名と診断指標、産褥期 42 の診断名と診断指標について信頼性・妥当性を検討した。

3. 研究の方法

全国の院内助産や助産外来を担当している助産師を対象に、それぞれの診断類型ごとに診断指標を用いた調査票を作成し、臨床の場で、良く観察できるものを 4 点、まあ観察できるものを 3 点、偶に観察できるものを 2 点、ほとんど観察できないものを 1 点とする 4 件法で回答を得て、因子分析により検討した。

4. 研究成果

妊娠期は 106 名、産褥期は 110 名から回答を得た。

因子分析の結果、42 の診断名は産褥期においては 34 の診断名に整理された。産褥期の診断名と診断指標を以下に示す。

新しく整理された産褥期の健康生活診断 (PH) 4 類型と 34 の診断名

類型 1. 基本的生活行動

PH111	食行動	適切	PH112	食行動	要支援
PH121	排泄行動	適切	PH122	排泄行動	要支援
PH131	睡眠・休息	適切	PH132	睡眠・休息	要支援
PH141	動作・運動	適切	PH142	動作・運動	要支援
PH151	清潔行動	適切	PH152	清潔行動	要支援

類型 2. 精神・心理的生活行動

PH211	情緒	良好	PH212	情緒	要支援
PH221	出産の価値	良好	PH222	出産の価値	要支援
PH231	出産の受容	良好	PH232	出産の受容	要支援
PH241	ボディ・イメージの変化	良好	PH242	ボディ・イメージの変化	要支援

類型 3. 社会的生活行動

PH311	家族関係	良好	PH312	家族関係	要支援
PH321	支援体制	良好	PH322	支援体制	要支援
PH331	役割調整	良好	PH332	役割調整	要支援

類型 4. 出産育児行動

PH411	育児行動	良好	PH412	育児行動	要支援
PH421	乳房の自己管理	良好	PH422	乳房の自己管理	要支援
PH431	授乳行動	良好	PH432	授乳行動	要支援
PH441	対処行動	良好	PH442	対処行動	要支援
PH451	愛着行動	良好	PH452	愛着行動	要支援

Maternity Diagnosis for Puerperal Period,

Category 1 Fundamental Living Process

Diagnosis	PH111	Eating behavior: Good
Diagnosis	PH112	Eating behavior: Support needed
Diagnosis	PH121	Excretion Process: Good
Diagnosis	PH122	Excretion Process: Support needed
Diagnosis	PH131	Sleep/Rest: Good
Diagnosis	PH132	Sleep/Rest: Support needed
Diagnosis	PH141	Movement/Exercise: Good
Diagnosis	PH142	Movement/Exercise: Support needed
Diagnosis	PH151	Cleanliness Process: Good
Diagnosis	PH152	Cleanliness Process: Support needed

Category 2 Spiritual/Emotional Process

Diagnosis	PH211	Affect: Good
Diagnosis	PH212	Affect: Support needed
Diagnosis	PH221	Worthiness of Childbirth: Good
Diagnosis	PH222	Worthiness of Childbirth: Support needed
Diagnosis	PH231	Acceptance of Childbirth: Good
Diagnosis	PH232	Acceptance of Childbirth: Support needed
Diagnosis	PH241	Change in Body Image: Good
Diagnosis	PH242	Change in Body Image: Support needed

Category 3 Social Life Process

Diagnosis	PH311	Family Relations: Good
Diagnosis	PH312	Family Relations: Support needed
Diagnosis	PH321	Support System: Good
Diagnosis	PH322	Support System: Support needed
Diagnosis	PH331	Role Arrangement: Good
Diagnosis	PH332	Role Arrangement: Support needed

Category 4 Childbearing Process

Diagnosis	PH411	Attachment and childbearing behavior: Good
Diagnosis	PH412	Attachment and childbearing behavior: Support needed
Diagnosis	PH421	Self-managing of the breast: Good
Diagnosis	PH422	Self-managing of the breast: Support needed
Diagnosis	PH431	Breast-feeding Process: Good
Diagnosis	PH432	Breast-feeding Process: Support needed
Diagnosis	PH441	Coping Process: Good
Diagnosis	PH442	Coping Process: Support needed

今後、これらの成果を基にマタニティ診断ガイドブックと実践マタニティ診断の改訂を進めていく予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 齋藤益子	4. 巻 1巻2号
2. 論文標題 マタニティ診断名の開発の経緯とこれからの診断名の開発に向けて	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本助産診断実践学会誌	6. 最初と最後の頁 7-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 齋藤益子 濱崎真由美 岩崎和代 松永佳子
2. 発表標題 産褥期における健康生活診断名・診断指標の信頼性・妥当性の検討
3. 学会等名 第2回日本助産診断実践学会公開ワークショップ
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 濱崎真由美 齋藤益子 岩崎和代 松永佳子
2. 発表標題 妊娠期における健康生活診断名・診断指標の信頼性・妥当性の検討
3. 学会等名 第2回日本助産診断実践学会公開ワークショップ
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 齋藤益子 松永佳子 中島彩 高橋愛美
2. 発表標題 産後期の助産診断の診断類型・診断名・定義・診断指標の検討
3. 学会等名 第2回日本助産診断実践学会公開ワークショップ
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 齋藤益子 濱崎真由美 岩崎和代 他	4. 発行年 2020年
2. 出版社 医学書院	5. 総ページ数 230
3. 書名 マタニティ診断ガイドブック第6版	

1. 著者名 齋藤益子 濱崎真由美 岩崎和代 他	4. 発行年 2020年
2. 出版社 医学書院	5. 総ページ数 280
3. 書名 実践マタニティ診断第5版	

〔産業財産権〕

〔その他〕

日本助産診断実践学会 https://jsmdp.jimdo.com/

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	濱崎 真由美 (Hamasaki Mayumi) (90352335)	宮崎県立看護大学・看護学部・准教授 (27602)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	岩崎 和代 (Iwasaki kazuyo)		
研究協力者	松永 佳子 (Matunaga Yoshiko)		